

《地獄の門》の上部中央に据えられ、上から地獄を見下ろす《考える人》は、当初、13世紀のイタリアの詩人ダンテを表していました。しかし、ロダンはそのアイデアを捨て、別の思索する人物を考えました。「裸の男で岩の上に坐り、両足を引き寄せ拳を歯にあてて、彼は夢想している。実り豊かな思索が彼の頭脳の中でゆっくりと確かなものになってゆく。彼はもはや夢想家ではない。彼は創造者である」とロダンは述べています。



これは、のちに門から独立して拡大された《考える人》です。いろいろな位置から観察して、この像が何を考えているか想像して書いてみましょう。



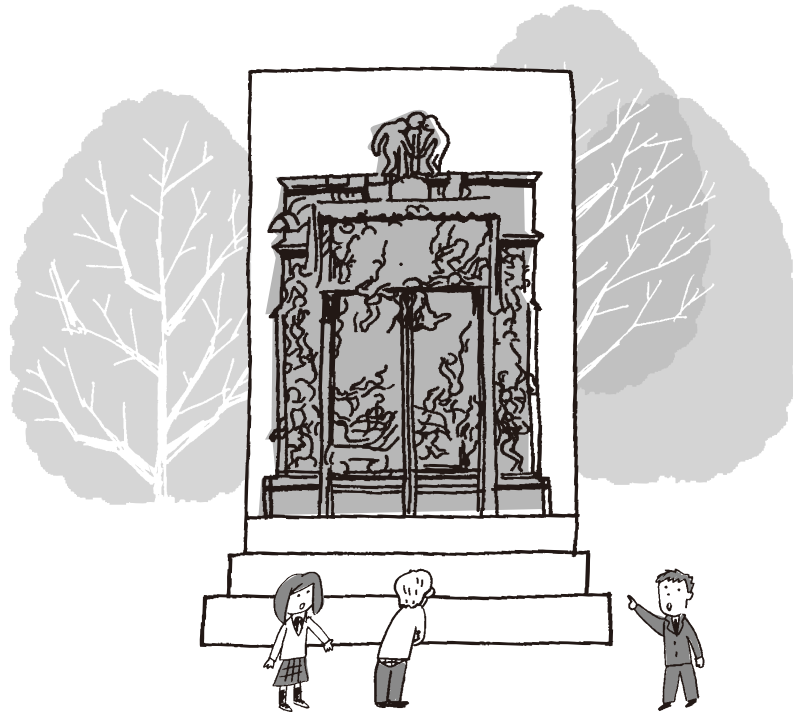
《考える人（拡大作）》1881-82年（原型）、1902-03年（拡大）、1926年（鑄造）

現在、世界には拡大作の《考える人》が20体以上あります。それほど人気があるのはなぜだと思いますか？



ちょうこく ロダンの彫刻

じっくり見たら…



オーギュスト・ロダンは、1840年にパリに生まれ、フランスで活躍した彫刻家です。国立西洋美術館は、現在、ロダンの彫刻60点を所蔵しています。美術館では、その中から《地獄の門》《考える人（拡大作）》《カレーの市民》を前庭に展示しています。このワークシートを使って、3点の作品をじっくり見てみましょう。

1880年、ロダンは新しく建設予定のパリの装飾美術館のため門扉の注文をフランス政府から受けました。イタリアの詩人ダンテの熱烈な愛読者だったロダンは、ダンテが書いた『神曲』「地獄篇」の物語をもとに、地獄に落ち悩み苦しむ人々約200体をこの大きな門扉に表しました。門扉として実際に使用されることはありませんでしたが、《地獄の門》に表現された多くの人物がのちに独立した彫刻作品として発表されています。



《地獄の門》からのちに独立した彫刻たち。
下の3点の作品を見つけて写真を撮りましょう。

各作品については「みんなの3Dロダン図鑑」
で詳しく調べることができます。



《考える人》1881-82年



《地獄の門》1880-90年頃/1917年（原型）、1930-33年（铸造）



《フギット・アモール去りゆく愛》
1887年以前



《オルフェウスとマイナスたち》
1889年以前



この門の扉が開いたら、あなたはどんな世界がひろがっている
と思いますか？

ロダンはカレー市の依頼で、14世紀に人質として名乗りを上げる
ことで、イギリス国王率いる軍隊から街を救った6人の市民の記念碑
彫刻を制作しました。市側からは中心人物ひとりを英雄的に扱った像
を要望されましたが、ロダンは6人全員を同じ高さに配置する構成に
こだわりました。



《カレーの市民》1884-88年（原型）、1953年（铸造）

まずはじめに、
彫刻の周りを一周して
よく観察しましょう。



人々の話し声は聞こえますか？

YES

どんなことを話しているでしょう。

NO

どんな気持ちでしょう。
どんなことを考えていると思いますか。



6人を上から見て、それぞれが
「立っている場所」と「向いて
いる方向」を○のように丸と
矢印で書きましょう。

「みんなの3Dロダン図鑑」を使うと《カレ
ーの市民》を上から見るができます。

